

平成 28 年度 自己評価報告書

中川学園調理技術専門学校

学校の教育目標

学校の教育理念・目標

☆本校の教育理念は「率直かつ明朗な人間関係を基盤とし、調理師資格保持者にふさわしい教育を行う」ことである

☆教育の目標を“自主 自律 自信”とする。学生が自らの考えで知識と技術の習得に励み、自らの気力を持って自身の生活を築き、自分を信じて人生を歩み出すようになることである。

☆育成する人物像

社会人として調理師という職業にふさわしい人格と知識及び技能の習得を、自らすすんで努力する人。

平成 28 年度の重点目標

重点的に取り組むことが必要な目標や計画

☆中途退学者への早期対応

- ・欠席者への早期対応と個人面談の充実を重点とし、保護者へ早期の連絡を行い、学校及び家庭での学習環境を整える。

☆就職のための指導強化

- ・一過性の夢や希望だけでなく労働環境などを比較できる就職先の選定能力を身につけさせる指導に重点をおく。幅広い選択肢を学生に提示し、本人の意思を最大限尊重した就職先を考えさせる指導を行う。

☆皆勤精勤の生活指導

- ・寝坊による遅刻や体調不良による欠席を減らすよう生活指導を強化する。体調不良に陥ることが無いように日頃より健康管理を徹底させる。

1 教育理念・目的・人物育成像

評価項目		適切・A ほぼ適切・B やや不適切・C 不適切・D 該当なし・E	現状の認識、及び 評価	・課題と今後の改善策	特記事項
本校の 独自性	教育方針（理念、目的、育成すべき人材像）が明確に定められている。	Ⓐ・B・C・D・E	・入学前の学校見学会や入学前事前説明会において詳しく説明している。学則及び内規に記載されており、入学後学校内のオリエンテーションにおいても再度伝えている。	・教職員間での教育方針、教育理念を含めた指導内容は定期的に確認している。しかし、指導内容で職員の個人の見解による差が出てしまうことがある。小さなことでも学生に対して誤解が出ないように朝礼や終礼において確認する体制を強化した。	
	教育方針（理念、目的、育成すべき人材像）が教職員、学生、保護者に良く浸透している。	A・Ⓑ・C・D・E	・文章にはなっていないが「誠意ある行動、前向き、礼儀正しい」を日ごろの授業においても担任や職員が意識するように指導している。		
	教職員が教育方針（理念、目的、育成すべき人材像）を踏まえた学生指導をしている。	A・Ⓑ・C・D・E	・教職員の研修やミーティングを通じて、教育方針の確認をしている。	・若手の職員を対象にした教育方針に基づく学校生活、実習授業中などの具体的指導マニュアルの作成と研修を検討している。	
	本校が社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いた活動をしている。	Ⓐ・B・C・D・E	・企業との連携として店舗実習による企業との連携、地域のイベント行事の参加、業界団体の会合への参加等により地域社会や企業のニーズを把握する努力を行っている。	・少子化の中、教育機関である専門学校卒業という付加価値がつく人材を育成することが第一と考え、社会的にもとめられる知識と意欲のある調理師を育成するプログラムを構築する必要があると考えている。	
	在校生、卒業生が学校に誇りを持っている。	A・Ⓑ・C・D・E	・卒業生がよく遊びに来る。その時に現場で役立っている事、職場で困っている事等リアルに聞くことが多い。本校を卒業してよかったとの声をよく聞く。	・卒業生に卒業後定期的に職場環境アンケートを取るシステムを検討している。在職状況の確認やアフターケアに役立てることを検討している。	

2 学校運営

評価項目		適切・A ほぼ適切・B やや不適切・C 不適切・D 該当なし・E	現状の認識、及び 評価	・課題と今後の改善策	特記事項
運営方針	運営方針が策定されている。	Ⓐ・B・C・D・E	<ul style="list-style-type: none"> 学校法人設立時から「調理師資格保持者にふさわしい教育」を教育理念とし、基本に健全な学校運営を心がけている。年度初めの全体会議において、校長より「年度運営方針」をきちんと打ち出し明確にしている。 		
	運営方針に沿った事業計画が策定されている。	Ⓐ・B・C・D・E	<ul style="list-style-type: none"> 学校法人としては、評議員会、理事会において明確な事業計画を策定し承認を得て遂行している。 学生募集の目標値を策定し達成できるように全職員が対応している。また、退学率の軽減にも努力している。 附帯事業についても地域社会や公共団体、企業との連携を重視し、年度計画を策定している。 	<ul style="list-style-type: none"> 附帯事業の年度予算を策定し、一定の収益を見込むことを検討している。 	
	運営組織や意思決定機能は、明確化されている。また有効に機能している	A・Ⓑ・C・D・E	<ul style="list-style-type: none"> 組織図の通り、意思決定機能は明確になっている。その中で、本校の指導的な職員で構成する指導部会議を定期開催し、組織整備をはじめ各種の課題について討議・検討しており、さらに職員会議を通じて全職員へ通達している。 		
	人事・給与に関する規定は整備されている。	Ⓐ・B・C・D・E	<ul style="list-style-type: none"> 就業規則にある通り整備されている。 		
	教務内容（学科・実習等）や財務（教材費・備品等）の組織整備など意思決定システムは整備されている。	A・Ⓑ・C・D・E	<ul style="list-style-type: none"> 指導部会議において、教務や財務の内容の検討も行われている。 不足備品等が発生した場合などの整備については、担当者より報告をあげさせいち早く対処している。 	<ul style="list-style-type: none"> 実習においては、破損があった場合の備品の補修や補充に時間がかかることがある。 	
教職員連携	教員間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて教育活動がなされている。	A・Ⓑ・C・D・E	<ul style="list-style-type: none"> 教員間の連携を取るシステムを構築している。部内の業務連絡のため朝礼を行っている。そこで、毎日の仕事分担の確認を行っており、仕事量のバランスを保つよう調整している。 	<ul style="list-style-type: none"> しかしながら他部署間の連携が、スムーズにいかない場合がある。今後、相互の連携において朝礼や終礼の報告内容を明確にして連携が取れる組織づくりをしていく。 	
	教職員会議をはじめ各種会議が有効かつ効率的に機能している。	A・Ⓑ・C・D・E	<ul style="list-style-type: none"> クラス担任からは毎日の朝礼、終礼等で各人、各クラス、各部署の報告がなされている。全職員が問題点を共有するように心がけている。 		
情報公開	学校ホームページで可能な範囲の情報を公開している。	Ⓐ・B・C・D・E	<ul style="list-style-type: none"> 平成 27 年度より職業実践専門課程の認定を受けそれに伴う情報公開をしている。 平成 29 年 7 月にホームページをリニューアルしたことにより、学校情報の公開がしやすかつ閲覧者が見やすくなった。定期的な情報提供を心がけている。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校情報を定期的に発信する努力をしているが、写真等の不足などにより掲示できない場合がある。 	

	保護者などへの授業を公開している。および、保護者と適切に連携している	Ⓐ・B・C・D・E	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事で保護者を招待できるものは郵送にて招待状を送付している。保護者の来場が増えている。 保護者を招いての学生レストランを実施している。保護者をはじめ、高校の先生や来賓等、来校頂いた参加者には大好評をいただいている。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者への成績表送付を検討している。送付時期、書式、コスト計算などを踏まえて検討している。 保護者を招く学生レストランは、2年生の調理コースとなっているので他コースも検討しているところである。
	地域や地域住民との交流が出来る。	Ⓐ・B・C・D・E	<ul style="list-style-type: none"> 学園祭では、毎年1000名を超える来場者があり、地域住民の方に多数御来場頂いている。 学園祭や学校行事イベントの際には、近隣住民への挨拶も欠かさず行っている。 地域の美化活動を実施した事もある。 	
危機管理	危機管理、警察、消防との連携、訓練など学校の安全対策は十分とられている。	Ⓐ・B・C・D・E	<ul style="list-style-type: none"> 学生が事故や問題行動を起こした時は、初期対応では近くにいる職員が対応し、すぐに管理職員に報告し状況判断して迅速な対応している。特に、怪我をした場合は迅速に病院へ搬送している。 毎年、水戸消防署と連携した総合避難訓練を実施している。 	
	職員は、校舎内外の施設設備を定期的に点検し、結果を的確に処理・報告(整備・保全)している。	Ⓐ・B・C・D・E	<ul style="list-style-type: none"> 学校施設は、常に整備点検している。職員が巡回し点検を行っているが、機械設備や害虫駆除については専門の業者に定期検査し報告書が提出されている。また、異常が発見された時は、管理職員に報告し迅速に対応している。 	
	事故、事件、災害時に対処する役割分担が明確にされている。危機管理マニュアルを理解している。	A・Ⓑ・C・D・E	<ul style="list-style-type: none"> 防災マニュアルを作成しており、緊急時の指示系統も明示している。 	<ul style="list-style-type: none"> 管理職員が校外で勤務している時などに地震や火災が発生した時、各教員の行動の確認や体制にあわせた見直しをする。特に、勤続年数の少ない職員を対象にした学生の身の安全を確保する避難訓練をシュミレーションしておく。
情報保護	学校内の情報、学生の個人情報に関し、その保護のための対策がとられている。	A・Ⓑ・C・D・E	<ul style="list-style-type: none"> パソコンの個人情報のセキュリティーは、専門の業者に委託しており万全である。 書類の情報管理は、所定の処理箱に保管し専門業者に委託して処分している。 個人情報については、パスワードの毎年変更等の対策をとっている。書類については鍵のかかるキャビネットに保管している。 	<ul style="list-style-type: none"> 学生が個人情報としての認知の甘さによる問題が発生しないようにSNSの扱い方の指導と利用方法を徹底して指導する。 個人情報保護のガイドライン及び個人情報漏えいの罰則について職員用と学生用のそれぞれの規定の検討をしている。
	・学生が学校情報の漏洩をしないような対策がとられている。	A・Ⓑ・C・D・E	<ul style="list-style-type: none"> 学校の内部事項が漏れることはないが、講師の肖像や学校内レンビ、誤解を招く内容等のインターネット公開はしないよう注意している。 	

3 教育活動

評価項目		適切・A ほぼ適切・B やや不適切・C 不適切・D 該当なし・E	現状の認識、及び 評価	・課題と今後の改善策	特記事項
教育課程 (カリキュラム)	学科等の授業計画を各教科別に策定している。	Ⓐ・B・C・D・E	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の教育目標に合致した教育が行われており、教員資格については、設置基準に定められているものを遵守している。 ・各担当講師が年間授業予定表を作成し、それに沿った授業を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会のニーズに概ね応えられている。「調理師」の資格は、「調理師法」の規定に基づき付与されるものであり、調理技術を第一としたものではないため、受け入れる業界が期待するものとは一致しない。しかも求人先企業からは即戦力的な要望が多く、期待に応えられる学生の育成は課題が多いが、過去の経験を活かした教育により対応している。 	
	キャリア教育、実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の見直しが行われている。	Ⓐ・B・C・D・E	<ul style="list-style-type: none"> ・校内でカリキュラム編成チームを作り、指導基準に合ったカリキュラムの作成をしている。 ・教育課程編成委員会において、本校外部の飲食業界の方の意見も取り入れ授業の編成を行っている。 		
	実践的な職業訓練(産業連携によるインターンシップ、実技実習等)が行われている。	Ⓐ・B・C・D・E	<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップは独自プログラムで実施している。企業との連携を最重要視しており、また、企業や団体からの意見を学生に最大限フィードバックしている。 		
	授業評価の実施、評価体制がある。	Ⓐ・B・C・D・E	<ul style="list-style-type: none"> ・単位取得、進級判定の基準は明確であり、判定会議では学生一人一人諮って審議している。単位未修得になり得る可能性のある学生には、事前に本人への指導を徹底している。また、保護者にもきちんと通達し事前に面談している。 		
	成績評価、単位認定、進級、卒業は明確である。	Ⓐ・B・C・D・E			
	関連分野における業界との連携においてすぐれた講師等を確保するなどのマネジメントが行われている。	Ⓐ・B・C・D・E	<ul style="list-style-type: none"> ・各方面で活躍している外部講師を招聘している。調理・製菓実習分野だけでなく、学科の講師の確保にも尽力している。 ・店舗実習はもちろんのこと、講師として演習や講義を通して指導して頂いている。各学生の評価表も頂いている。 		
教員研修 ・資質向上	関連分野における先端的な知識、技能等を修得するための研修が行われている。	Ⓐ・B・C・D・E	<ul style="list-style-type: none"> ・特別講習会として、各業界でのスペシャリストの講義は教職員も聴講できるように配慮している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校として強制的に講習会の受講は考えていない。上司が必要と感じれば職員へ参加を促している。 ・学校内外でも若手職員の研修を行っているが、学校の行事や通常職務のためタイミングを合わせなければ職業能力研修の参加がむずかしい。 ・校内での職員研修会を実施している。現在は外部講師による研修会定期開催している。職員の研修や勉強成果の発表を行うことを予定している。 	
	教員の指導力育成など資質向上のための取り組みが行われている。	A・Ⓑ・C・D・E	<ul style="list-style-type: none"> ・自己啓発を促し、研修として外部講習会に参加する場合は時間が許す限り許可している。参加費等の補助金を出す場合がある。 ・教員研修においては、職員への研修の積極的参加を促し、教員の視野を広げるとともに、それを、本校学生への指導という形で還元させている。 		
	教員の能力開発のための研修が行われている。	A・Ⓑ・C・D・E			
	教員の研修・研究した成果を他の教員に伝えて情報を共有する体制がある。	A・Ⓑ・C・D・E			

4 学修成果

評価項目		適切・A ほぼ適切・B やや不適切・C 不適切・D 該当なし・E	現状の認識、及び 評価	・課題と今後の改善策	特記事項
進路指導	就職率の向上が図られている	Ⓐ・B・C・D・E	<ul style="list-style-type: none"> 進路選択において1年次より意識させ、仕事内容だけでなく職種 の形態、勤務形態、福利厚生、企業理念なども考えさせた就職が できるような適性に合った職種や就職先を見出す指導をしている。 卒業年次では、クラス担任、就職指導担当が複数回の面接してい る。名声や条件よりも本人がやりがいをもって働ける職場環境を 提案し就業できるように職員も努力している。そのため、短期離 職者が少なく、他校との比較においては企業から評価されている。 在校生に対して卒業生OBやOGが現在の勤務内容の説明を行い、 就業への見解を深めている。 就職の際に良く企業の特性や勤務体系等を見極めさせる。その企 業の特性を理解させる店舗研修等に行かせることで自分の特性に 合うか考えさせている。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路指導、担任、科目担当など様々な者が 情報の共有をすることが望ましいがどうし ても偏りが出てしまうことがある。情報を 必要とする学生への的確な指導や情報提供が できるようシステムを検討する。 	
	各学生のニーズに合った就職先の選 定を行なっている。	Ⓐ・B・C・D・E			
	就職先の形態や企業情報などの情報 を掌握できるキャリア教育（学生指 導）を行っている	Ⓐ・B・C・D・E			
生活指導	退学率の低減が図られている。	Ⓐ・B・C・D・E	<ul style="list-style-type: none"> 無断欠席者や3日連続欠席者には、担任より声掛けをし、早期に 状況を把握し保護者との確認を取る。 生活態度が不良になりそうな者には、事前に生活態度を見直すよ う伝え悪化しないよう指導している。また、近年、著しく生活態 度が悪い者は減少している。 	<ul style="list-style-type: none"> 退学者の数は減ってきているが、ゼロでは ない。さらなる対策を検討する。 調理師資格取得及び就業意欲が不明確なも のが入学してきた場合、当然退学者が増え る。入学後にギャップを極力感じさせない 事前説明等に努力している。 	
	出席状況不良の学生に早期に対応し ている。	Ⓐ・B・C・D・E			
	生活態度不良、内規違反の学生に早期 に対応している。	Ⓐ・B・C・D・E			
社会的 ニーズ	卒業生、在校生の社会的な活躍及び評 価を把握している	A・Ⓑ・C・D・E	<ul style="list-style-type: none"> 本校を来訪する卒業生は多い。その際に卒業生の情報を入れるよ うにしている。また、卒業生が開店、開業する際はお祝いを送っ ている。 各企業で中堅の役割を担っている卒業生が来校した時は、学生の 前で仕事内容ややりがいなどを話してもらっている。 		
	卒業後のキャリア形成への効果を把 握し、学校の教育活動の改善に活用さ れている。	A・Ⓑ・C・D・E			
	社会人のニーズを踏まえた教育環境 が整備されている。	Ⓐ・B・C・D・E			
学修成果 の確認方 法	実技試験・学科試験の合格基準を明確 である。	Ⓐ・B・C・D・E	<ul style="list-style-type: none"> 実技試験、学科試験共に合格基準を明確にしている。複数の職員 で試験結果を確認し、合否判定をしている。 毎回、試験の合格者数、平均点等は算出しているが、毎回同じ難 易度、条件であるわけではないので参考程度としている。 技術考査を毎年本校の学生も受験している。平均点と比較し本校 の学生が上回っていることを確認している。 	<ul style="list-style-type: none"> 学修成果が見えるように、具体的な基準を 設け、前年度の比較がしやすい方策を検討 している。 	
	実技試験・学科試験等の前年度との比 較を行っている。	A・Ⓑ・C・D・E			
	全国試験等での全国平均点数と本校 の点数の比較を行っている。	A・Ⓑ・C・D・E			

5 学生支援

評価項目		適切・A ほぼ適切・B やや不適切・C 不適切・D 該当なし・E	現状の認識、及び 評価	・課題と今後の改善策	特記事項
学生相談	学生が教職員に相談できる体制は整備されている。	Ⓐ・B・C・D・E	・最低年2回はクラス担任と二者面談を行っている。その他にも適宜、担任に相談する体制を作っている。また、コース、就職に関しては担当の職員がおり多方面での相談体制を取っている。		
	学生が教職員以外に相談できる（カウンセリング）体制が整備されている。	A・Ⓑ・C・D・E	・スクールカウンセラーは常駐していない。平成27年度より、市内のカウンセリングセンターと提携し、チラシパンフレットを配布しカウンセリングが受けられる体制を作っている。学生が利用しやすい環境を作る努力をしている。	・精神的な病気やコミュニケーション障害を持つ学生が増えている。学生生活や悩み事の相談体制を整備する。 ・茨城カウンセリングセンターの会員である。	
	学生に対する経済的な支援体制は整備されている。（優遇制度、奨学金制度等）	Ⓐ・B・C・D・E	・公共機関の奨学金制度を積極的に紹介している。また、その受領時期にあわせた学費納入方法も実施している。 ・経済的に困窮している学生に対しては、学費の支払いを一定期間猶予する制度がある。しかし、給付型、貸与型の奨学金のような金銭的支援援助は無い。 ・本校独自に定める優秀在校生に奨学金を授与している。 成績優秀者、社会人入学、高等課程一括納入、家族入学優遇制度 ・優秀在校生奨学金実績として、H28年度16名 総額28万円授与している。	・学費等の本校独自の奨学金制度は、検討中である。	
	学生の生活環境（アルバイト紹介、不動産会社等の紹介）の支援は行われている。	Ⓐ・B・C・D・E	・就職活動と同様、アルバイトの紹介も学校を通じて紹介している。 ・入学説明会時にアパート、駐車場情報なども学生に伝えている。 学生寮は所持していない。		
健康管理	学生の健康管理を担う組織体制がある。	Ⓐ・B・C・D・E	・インフルエンザやノロウイルスの予防にも努め、必要と判断した学生や職員には早期に病院で受診するよう促している。 ・年度初めに、健康診断を行っている。そこで再検査や要診断と判断された学生には、受診させている。 ・2年生は年間2回の細菌検査を実施している。		
	定期的に細菌検査、健康診断を行っている。	Ⓐ・B・C・D・E			
課外活動	課外活動に対する支援体制は整備されている。	A・Ⓑ・C・D・E	・調理技術コンクールへの参加を全面的にバックアップしている。 （参加者の練習及び申請料等の全てを学校負担としている） ・茨城県洋菓子協会が主催するイバラキスイーツコンテストも毎年参加している。		

	学生が課外活動(コンクール参加等)に出場することを推奨している。	㉠・B・C・D・E	・学校に運動部等の課外活動は有していないが、競技種目にかかわらずに県大会以上の大会に出場することができる学生がいる場合はサポートしている。	
海外研修	海外研修について十分な教育体制を整備している。	A・㉠・C・D・E	・例年、西洋料理と製菓の現地講習会としてヨーロッパ研修を12月初旬に行っていたが昨年度のテロ事件により、自粛している。今後世界情勢を見据え、安全を第一に考え平成29年度の学生から再開実施する方向で検討している。	・ヨーロッパ情勢が不安定なところもあり、催行決定が難しいところである。参加者も減少している。
国内研修	国内研修について十分な教育体制を整備している。	A・㉠・C・D・E	・例年、日本料理の研修として京都研修を実施している。料亭でのマナーや質の高い料理を食し、また、料理長の料理解説によって理解を深めている。 ・東京製菓店巡りのイベントを開催している。製菓コースの多くの学生が参加し、地元では味わうことのできない食体験をしている。 ・いずれも学生からの希望で開催したイベントで5年以上続けている。	・いずれも希望性である。夏休みという事もあり事前指導を行っているものの緊張感のない学生への対応を苦慮している。開催時期も検討の対象としている。
卒業生	卒業生への支援体制(再就職や相談)がある。	A・㉠・C・D・E	・制度としてはないが卒業生が相談に来たときは、真摯に対応している。再就職を希望する卒業生には再就職先を紹介しており、年間に数件紹介している。	・同窓生への支援をするための規定を作成し、学校と連携を強化し組織的に応援する体制づくりを始めている。
	卒業生が在校生に対し、アドバイスや体験談などを説明する体制が整っている。	A・㉠・C・D・E	・店舗や企業で中堅、新人となる卒業生が来校した時には、ホームルームの時などに学生の前で仕事内容ややりがいなどを話す機会を設けている。 ・ロングホームルームなどで時間に余裕が出来た時には、卒業生を招聘し数名の卒業生に講義依頼をしている。	

6 教育環境

評価項目		適切・A ほぼ適切・B やや不適切・C 不適切・D 該当なし・E	現状の認識、及び 評価	・課題と今後の改善策	特記事項
施設・設備	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されている。	Ⓐ・B・C・D・E	<ul style="list-style-type: none"> ・設備教室は設置基準の通り完備している。教室、実習室においては窮屈になることが無いようゆとりが出るように配慮されている。 ・施設設備整備は常時確認しており、最新の設備を導入できるよう努力している。 ・平成28年5月に、第1実習室を改装した。最新の焼き台（サラマンドル）やオープン（スチームコンベクション）を完備している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校内において学生が利用できる WI-FI の完備を進めている。 	
	実習施設について十分な教育体制を整備している。	Ⓐ・B・C・D・E			
	学校生活において環境衛生を配慮した整備している。	A・Ⓑ・C・D・E			
環境教育	ゴミの分別、省エネ、リサイクルなど環境への関心を高める教育をしている。	Ⓐ・B・C・D・E	<ul style="list-style-type: none"> ・水戸市の分別よりも厳しい基準でゴミの分別をするよう指導している。リサイクルについては完全に分別するようにそれぞれのゴミ箱・リサイクル箱を配備している。 ・生ごみについては、廃棄するものと資源として処理するもの分けている。提携している「日本農業実践学園」へ運び、豚のえさとなるように処理している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・省エネ、器具や道具の扱いなどの経済観念を養うことを学生よりも教職員へ意識させている。 ・同様に美化・清掃も教職員へ意識させている。 	
	校内清掃・校内美化に取り組ませている。環境設備を大切にすることを育成している。	A・Ⓑ・C・D・E			

7 学生の受入れ募集

評価項目		適切・A ほぼ適切・B やや不適切・C 不適切・D 該当なし・E	現状の認識、及び 評価	・課題と今後の改善策	特記事項
募集活動	学生募集活動は、適正に行われている。	Ⓐ・B・C・D・E	<ul style="list-style-type: none"> 事前のオープンキャンパス等で調理師及び本校の特性を十分に説明し、意思決定させて入学させている。入学前に必ず参加することを条件としている。 学生募集においては誇大広告にならないよう十分に配慮し、また、入学志願者には昨年度までの実績を数字や表にして正確に伝え、見解の相違がないように最善を尽くしている。 学校のホームページに「学校情報の公開」として、適正な情報を公開し、閲覧できるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 新入予定生の多くがオープンキャンパスでの印象が強いというアンケート結果があり、全職員が携わるため、新入生への伝達事項について若い職員へ指導している。 学生数減少に伴い、募集広報の紙媒体のものからインターネットのWEB媒体スタイルへ変化させている。 	
	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられている。	Ⓐ・B・C・D・E			
入学試験 学費納入	入学生の選抜は厳正なものである。	Ⓐ・B・C・D・E	<ul style="list-style-type: none"> 入学試験は厳正に行っている。面接試験においては校長自らが面接に立ち会い学生の適性をみている。面接、内申書、作文等を加味し職員会議にて合否決定している。 学納金は明確に募集要項に記載されており高額な追加費用は発生しない。また、学費納入金の納付期限も同様に記載されているので入学希望者が事前に把握できるようにしている。(教材費については、明細書も添付しており適切に徴収している。) 	<ul style="list-style-type: none"> 原則として、学費は事前一括納入であるが、経済的な事情により分割納入を認めている。増加傾向にある。 	
	学納金は妥当なものとなっている。	Ⓐ・B・C・D・E			

8 財務

評価項目		適切・A ほぼ適切・B やや不適切・C 不適切・D 該当なし・E	現状の認識、及び 評価	・課題と今後の改善策	特記事項
財務関係	・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	Ⓐ・B・C・D・E	<ul style="list-style-type: none"> 出生率低下による人口減少を見据えた財務体質の構築を検討している。ただし今現在は入学者の確保が安定しており、予算に基づく適切な収支バランスを保持している。 広報のエリア拡大と社会人入学者の奨学金制度の充実の検討を含む中長期的な計画作成と取組を行っている。 新年度が始まる前に、予算、収支計画を作成し、理事会、評議員会を通じて承認を得ている。 財務関係については法人と学校を明確に区分し、適切に処理され、書類等も完備されている。 新会計基準による学校法人システムへの変換を平成27年度より公認会計士事務所の指導により実施している。 事業計画にのっとり、予算案を作成して執行に際しても管理を徹底している。 	<ul style="list-style-type: none"> 出生率低下による人口減少を見据えた財務体質の構築 → 教員の派遣業務や外部調理講習会、イベントの実施等による収入源の確保 → 高校生に限らず低年齢層にも、食への関心を持たせ、調理に目を向ける活動をして、調理希望者のすそ野を広げる。 	
	・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	Ⓐ・B・C・D・E			
	・財務について会計監査が適正に行われているか	Ⓐ・B・C・D・E			
	・財務情報公開の体制整備はできているか	Ⓐ・B・C・D・E			

9 法令等の遵守

評価項目		適切・A ほぼ適切・B やや不適切・C 不適切・D 該当なし・E	現状の認識、及び 評価	・課題と今後の改善策	特記事項
法令等の遵守	・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされている。	Ⓐ・B・C・D・E	・法令を遵守し運営にあっている。 ・毎年、茨城県生活衛生部の指導調査を受けている。		
自己評価	・自己評価の実施と問題点の改善を行っている。	Ⓐ・B・C・D・E	・自己評価においては、昨年までは本校の管理職以上が検討し評価していた。今年度からは、常勤職員全員に学校の自己評価を認識させ、職員の意識改革に臨んでいる。 ・自己評価点検表を学校関係者委員会が評価し講評を得ている。	・自己評価点検表をさらに細分化し、職員、学生、保護者にも項目チェックを行い。公正に評価されているかどうかを確認する。 ・実施の時期、内容の見直し、小項目の作成などを随時検討していく。	
	・自己評価結果を公開している。	Ⓐ・B・C・D・E	・ホームページに公開している。毎年10月1日には更新している。		
学校評価	・学校評価を公開している	Ⓐ・B・C・D・E	・2014年度から自己評価に基づく、学校関係者評価委員会を開催している。各分野の委員からの意見を学校運営に反映している。 ・ホームページに公開している。毎年10月1日には更新している。		
第三者評価	・第三者評価機関の評価を公開している。	Ⓐ・B・C・D・E	・第三者評価委員会（全国調理養成施設協会が実施）の評価報告を受け高い基準でクリアーしている。 ・最新の評価結果をホームページに公開する。		

10 社会貢献・地域貢献

評価項目		適切・A ほぼ適切・B やや不適切・C 不適切・D 該当なし・E	現状の認識、及び 評価	・課題と今後の改善策	特記事項
社会貢献 地域貢献	・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っている。	Ⓐ・B・C・D・E	・各関係機関等のイベントには、率先して参加し、学生と地域社会が交流するよう心掛けている。 ・関係機関のイベントには必ず「食育」をテーマにし小学生が興味を持つ内容を実施している。	・地域団体や各関係機関のイベントは減少傾向にあるが、機会があれば積極的に参加し、学生も動員しての交流活動を行うように努力している。 ・年間行事予定で事前に食育教室を企画し、地域の小学校に案内状を送り実施できるよう努力する。またそれを習慣化していく。	
	・学生のボランティア活動を奨励、支援している。	Ⓐ・B・C・D・E	・水戸市の「まちなかフェスタ」では約600人の小学生にボランティアで「リンゴの皮むき体験」を実施した。平成24年度より毎年実施している。ボランティア学生を募り、毎年10名以上が参加している。		
	・地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施している。	Ⓐ・B・C・D・E	・県や企業、団体などの依頼を受けて地域の小中学校を巡回しての料理教室を実施している。		

1 1 国際交流

評価項目		適切・A ほぼ適切・B やや不適切・C 不適切・D 該当なし・E	現状の認識、及び 評価	・課題と今後の改善策	特記事項
留学生	・留学生の受け入れ・派遣を行っているか	A・ Ⓑ ・C・D・E	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、留学生に向けてのパンフレットや募集要項の作成はしていない。今後、必要に応じて留学生向けのパンフレットや募集要項の作成を行う予定である。 ・茨城県国際交流課の依頼でアルゼンチンとブラジルから各1名計2名を研修生として4か月間受け入れている。(平成26年) ・平成28年度も同課からのブラジルから1名の研修生を受け入れた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・海外留学生の入学実績を作るために、日本語学校や国際交流イベントを訪れて広報活動を実施するべきと思うが、留学生が卒業後、日本で働くことのできるビザを入手することが難しいことから、多くの希望者が望めないのが現状である。 	
	・留学生の受け入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	Ⓐ ・B・C・D・E	<ul style="list-style-type: none"> ・留学生の入学実績が少ないが、発生した場合は適切に処理している。 		
海外研修	・海外での研修、提携校があるか。また、評価される取り組みを行っているか。	Ⓐ ・B・C・D・E	<ul style="list-style-type: none"> ・海外留学の提携校はあるが、実際の留学在校生や卒業生の進学は少ない。 ・イタリア1校、フランス2校の調理・製菓学校と提携している。海外研修にてヨーロッパへ渡航する際には、研修を実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・例年、西洋料理と製菓の現地講習会としてヨーロッパ研修を12月初旬に行っていたが昨年度のテロ事件により、自粛している。今後世界情勢を見据え、安全を第一に考えて検討している。 ・平成29年度は3月に実施する方向で調整している。 	